

第20回（平成29年度）椿展報告

～ これまでを振り返りつつ ～

事務局 小泉不二男

今年は、平成10年3月に土浦で第1回の椿展を開いてから、ちょうど20回目の椿展になります。

20年前の第1回椿展会場は、土浦駅前ビル5階に開設されたばかりの県南生涯学習センターでした。会期は3月28、29日の2日間の開催。会の運営資金不足から使用料不要の廊下とホールを利用し、9人しかいなかった会員で会場を作成しました。

木村正博さんが大苗を何本も持ち込み、それに続いてそれぞれの会員が書籍や掲示物、ショーケースに入れた焼き物を陳列するなど、初めての椿展への会員の意気込みが会場の随所で展開されました。

会員同士は初対面も多くとまどいもありましたが、そこが趣味の会、同好の士が展示会の開催に向けてたちまちのうちに一致結束しました。

ポスターの作成や新聞への開催予告依頼、会員の駐車場や昼食のこと、細かなところで芳名帳などの物品準備、あるいはお客様がご祝儀を持って来られた場合の対応など、初めてで戸惑うことも多かったのも今となってはいい思い出です。



第1回椿展風景（平成10年）

県内初めての椿展ということもあってNHKからテレビ取材があり、ニュースで放送されて会員一同歓声をあげたのも昨日のこのようです。

椿展を契機に会員もみるみる増えました。椿展会場での入会申し込みに加えて、会員が知り合いの方を誘うことで輪が広がっていくようでした。熱気と高揚感がありました。

次の年は、初回で得た自信と勢いを駆って、会場を廊下から、同じ館内の広々した集会室に移して展示しました。その後も同センターでの椿展が続きました。



第3回椿展風景
(講義室が会場、豪華な飾り付け)



桐野秋豊先生が講演
(演題は「椿の魅力」)

古宇田武さん（故人）が毎回、会場の中心に大きなディスプレイ（飾り物）を作られ、来場者を驚かせたのもいい思い出です。

お元気だった桐野秋豊先生にご講演を依頼し、高名なツバキ研究家が来るということで、多くの人が集まりました。その後も先生には何度か椿展や講習会での講演を依頼いたしました。

先生には、展示物をお借りしたり、助言をいただいたりと物心両面で様々なご支援を頂戴いたしました。

第5回からは会場は亀城プラザに移りました。苗木即売の要望が強く、それが可能な施設と云うことで移りました。県の施設を含め公共の施設は、物品販売を制限しているところが多いので、会場探しには苦労しました。

それ以来、同所での椿展が続いています。

後に竜ヶ崎椿展、さらに茨城県植物園、茨城県フラワーパークでの椿展も加わりましたが、土浦の椿展は会結成とともに20年間歩んできました。

第20回椿展の今年、いつも通り3月最後の週末、25日、26日、土浦市の亀城プラザを会場にして開催しました。来場者は391人でした。

20年目にあたる今回のテーマは肥後椿。平成14年に同じテーマで開催して以来15年ぶりです。会員育成の品種も増え、前回より多くの花を楽しめました。



テーマコーナー「肥後椿」



テーマ花「桜狩」

テーマの肥後椿について「熊本藩士が育てた椿」との説明に、武士と椿との関係を初めて知ったというお客様が大多数でした。これほど身近にありながらその歴史や魅力が知られていない花も珍しいのではないのでしょうか。

テーマ花の「桜狩」は、新聞等の予告記事に掲載されたこともあり、肥後椿の代表花のような立場になりました。優しい色合いで人気でした。

また会場内で行った椿ミニ講話で、一重平開咲き梅芯などの肥後椿の特徴を解説しました。

出品の肥後椿（一部）



朱月



那古井の春



大田白



極光冠

ちなみに、これまでの20年間のテーマは以下の通りです。

年度	テーマ	年度	テーマ
平成10年	特になし	平成20年	茨城の椿
平成11年	江戸椿	平成21年	京椿
平成12年	椿の花形のいろいろ	平成22年	香り椿
平成13年	ワビスケ	平成23年	江戸椿(震災で中止)
平成14年	肥後椿	平成24年	江戸椿
平成15年	洋種椿	平成25年	白椿
平成16年	変わり葉椿	平成26年	尾張椿
平成17年	茶花としての椿	平成27年	椿の花形のいろいろ
平成18年	ヤブツバキ	平成28年	洋種椿
平成19年	10年の歩み	平成29年	肥後椿

来年は椿盆栽がテーマです。その後は、順次ユキツバキ、黄色椿、江戸椿を予定しています。



会場風景

写真左、昨年のテーマの洋種椿が今年も会場を飾りました。手前は中山徹さんの「港の曙」のミニ垣根。室内に馥郁とした香りが漂います。香り椿は平成22年のテーマ以来、会員間に人気が高く、長く栽培されています。

写真右、掲示された椿写真は中村茂さんの出品。切り花の一部は、前日に小泉の椿畑で会員が共同作業で準備したものです。

今年の椿展で特筆することは、埼玉県川口市の安行から遠路を皆川利雄さんにご夫妻で来場されたことでした。ちょうど椿のミニ講話の時間でしたので、お二人を紹介するとともに染井の江戸椿が皆川椿花園によって守られ受け継がれたことなど説明しました。居合わせた会員も驚いていました。4年後のテ

マは江戸椿の予定。皆川さんのお力をお借りしながら、椿展を充実させたいものです。



椿ミニ講話

染谷治正さんが椿の育て方説明中。来場された安行の皆川利雄さんをご紹介し江戸椿を解説。



椿苗即売

今年も苗木の販売は好調。説明する会員も手慣れたもの。今後は会員育成苗の販売も検討中。

ここ 10 年の入場者数は以下の通りです。

平成 29 年	391
平成 28 年	450
平成 27 年	304
平成 26 年	214
平成 25 年	276
平成 24 年	266
平成 23 年	大震災で中止
平成 22 年	626

平成 23 年の大震災を境に入場者数が大きく変化しました。会にとっても大きな出来事でした。

大震災は 3 月 11 日、2 週間後に椿展を控えた直前の時期に起こりました。当初は、東北地方の被害のニュースに目を奪われていたものが、日を経て茨城県内での深刻な被害状況が明らかになる中、15 日の夜に小田会長宅に急きよ役員が集まりました。いろいろ意見はあったものの会長の「犠牲者に対し静かに冥福を祈りたい」との意向に最後は一同賛同し中止としました。会長自身も住職を務める寺の本堂の大屋根の瓦が崩落していました。すべて葺き替えられ旧に復したのは 5 年を経てようやく去年のことでした。

会は大震災後半年間活動を休止しました。

大震災から6年、様々な面で影響を受けつつ、徐々に活動を復活してきました。現在は、入場者数も震災前に戻りつつあります。



椿の花寄せ（中村茂さん）
洋風アレンジが新たな魅力を発信



終了後の展示花プレゼント風景
仲良く分けて下さいとアナウンス。

ここ数年、展示会終了後に飾り付けた椿の花をプレゼントしています。今年は、終了を待ちかねるお客様がおおよそ20名にもなり、合図とともに目指す花に殺到しました。



藪椿（出品者：中山徹）



ヌチオズ・パール（出品者：大関惇恕）



月の輪（出品者：植竹亨）



春風（出品者：中山徹）



羽衣（出品者：中山徹） 港の曙（垣根仕立て）（出品者：中山徹）

次回のテーマは椿盆栽。盆栽愛好家の会員も多くなり、次第に手持ちの鉢数が増えているようです。今年、早くも上の写真のような見ごたえのある作品がいくつも並びました。

盆栽趣味の会員は、日々椿の手入れを怠らず、おそらく腕をさすりながら来春の展示会を待っているのではないのでしょうか。今から楽しみです。